

2024年度 学校評価

NHK 学園高等学校 校長 森川 覚

NHK 学園高等学校は、2024年度の学校評価において、スクールミッションおよびスクールポリシー、事業計画、それに前年度の学校評価で明らかになった課題を踏まえて、以下の4つの評価項目を定め、生徒、保護者、教員を対象にアンケートを実施しました。そこで浮かび上がった課題について、教員間で討議し改善策を検討した上で、第三者評価委員会に諮り、その指摘を踏まえて、次年度に取り組むべき課題と改善策をまとめました。

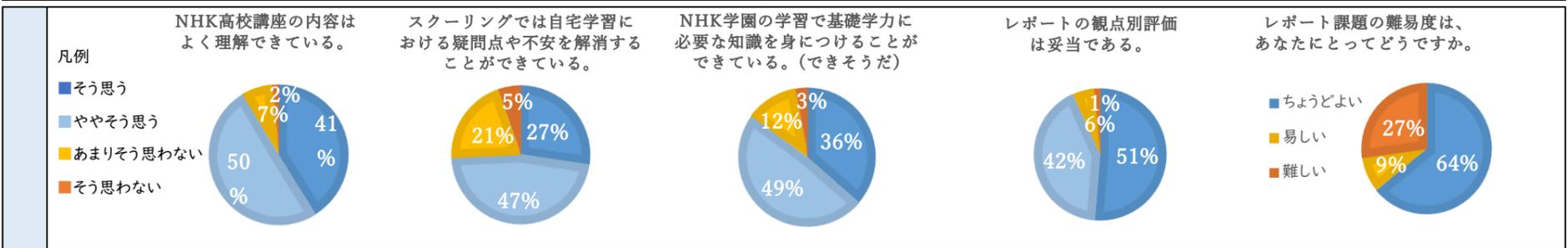
なお、評価項目ごとの達成度については、生徒アンケートで「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合の平均値をもって、評価しました。回答した生徒数が、在籍生徒の半数に満たないアンケートですが、数値でお示しできる一つの指標として、「次年度への課題と改善策」とあわせてお読みください。

「スクールミッション」

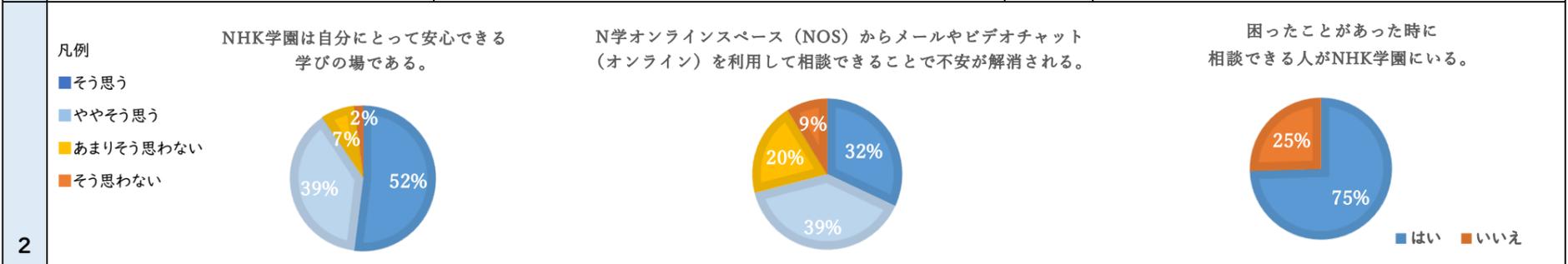
NHKと連携し、放送やインターネットなどの多様なメディアを利用することで、学ぶ意欲と高校卒業の意思を持つ人に、「いつでも、どこでも、だれにでも」学ぶ機会を提供し、自立して未来を生き抜くための基盤となる力を身につけていく学校

評価項目

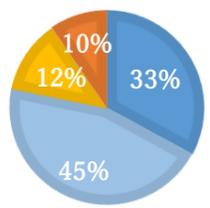
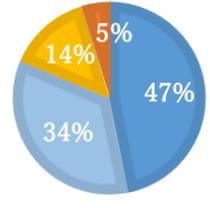
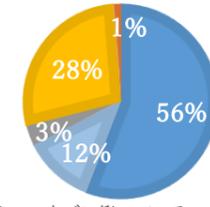
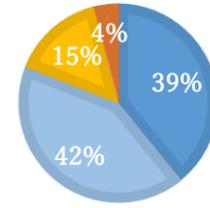
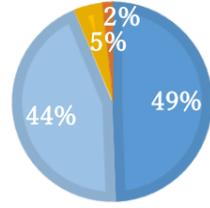
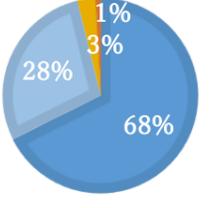
1	学習指導	「放送視聴」「レポート」「スクーリング」「試験」によって生徒の意欲的・自主的な学習を推進し、基礎学力向上を図る。	達成度 生徒アンケートの回答平均値 「そう思う」+「ややそう思う」 A：平均 80%以上 B：同 60%以上 C：同 40%以上 D：同 40%未満
2	生徒サポート	生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるようチームサポート体制の充実を図る。	
3	進路指導	生徒が各々の進路目標を実現できるよう進路指導体制の充実を図る。	
4	学校全般	高校生活において満足感と達成感が得られるよう学校全体でスクールミッションの実現に努める。	
回答数 生徒 1,217人 (回答率40%)			



課題	具体的取組み	達成度	次年度への課題と改善方策
1 学習指導 ・2024年度は、すべての年次の生徒が新教育課程となり、レポート課題の細分化の完成年度を迎えるため、改めてその効果を検証し、より生徒の学力向上につながるよう工夫する。 ・スクーリングに対する評価が高校講座やレポート添削指導に比べて依然として低い。研修をより充実させ、指導力の向上に取り組む。 ・NOSのリニューアルにより、各観点に基づく学習内容を配置し、新たに観点別評価を実施する。それを検証して、多角的にとらえた「学力」の向上をめざす。 ・「オンラインサポート動画」が学力向上に直接結びつくことと回答した生徒の割合が、放送視聴、レポート、スクーリングと比較すると低い。視聴が義務ではないためとも考えられるが、生徒にとって活用する価値のあるものになるようさらなる工夫・改善を図る。	・レポート細分化により、NHK高校講座視聴とレポート課題の結びつきが明確になった。とくに、高校講座を視聴後、その内容をどの程度理解できているか確認するレポートの設問は、観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」をみることもでき、学力を多角的に評価して、生徒の学力向上を図ることができるようになった。 ・スクーリングについては、本校だけでなく各協力校における指導の標準化を目指し、通信教育実施計画の構成を工夫した。また、本校ではスクーリングを軸とした教科・科目での研修を充実させた。 ・NOSをリニューアルし、レポートと中間到達度チェックに観点別評価を導入した。生徒の提出内容が不十分な場合、観点ごとに再提出の指示を出すこととなり、その結果、昨年度より再提出の件数は増えたが、どの設問が再提出であるかを赤い背景色で示すことで、生徒への指導が明確に伝わるようになった。 ・「オンラインサポート動画」は、「通信教育実施計画」に、①年度当初学習を始めるにあたって ②中間到達度チェック対策 ③年度末試験対策等、年3回程度実施すると位置付け、質・量の充実を図った。	A	・独自開発のネット学習システム(「N学オンラインスペース」=NOSと呼ぶ)のリニューアルによるレポート学習等の効果を検証し、さらに学習しやすいものになるよう開発を進める。 ・スクーリングのあり方について、自宅学習における疑問点や不安の解消につながるものになるよう研究を継続するとともに、教員研修を充実させ、スクーリングだけでなくレポート添削や試験も含めた通信教育の指導全体を通して学習の定着と学力の向上が実現されるよう改善策を検討していく。 ・2024年度からの新教育課程の全面実施を受けて、「観点別評価」について検証し直し、観点ごとの学力の到達度の評価が生徒一人ひとりに実感できるものになっているか、評価の在り方を継続して検討する。また、生徒自身が学力の向上を多角的にとらえることができるようになっているか、今後、見極めていく。 ・教員が制作する「オンラインサポート動画」を質・量ともに一層充実させ、年間の指導計画の中により適切に位置づけ、利用率の向上を図る。



課題	具体的取組み	達成度	次年度への課題と改善方策
2 生徒サポート ・協力校のスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)とのネットワークを維持強化する。 ・担任以外にも相談できる人がいることが生徒・保護者の安心感につながるよう、SCやSSWおよび養護教諭の存在をさらにアピールする。 ・2024年度に開講する「コミュニケーションスキル」を活用するために教員体制を整え、生徒のコミュニケーション能力の伸長を図る。	・オンラインで全国のSC、SSWによる会議を開催した。各協力校の課題を共有するとともに、本校の保健室・相談室への相談の件数や内容について分析した結果をもとに今後の支援について検討した。通信制高校におけるSC、SSWの役割を共有し、スクーリングでの声掛けなど、基本的な取り組みの実践を依頼した。 ・SCが不在の協力校に対して、SCによるオンライン講演会を開催した。 ・各地区の生徒・保護者に向けての、SCによる独自の「通信」の送信を全地区において実施した。 ・2024年度に開講した「コミュニケーションスキル」を土台にした、生徒の心身の安全を守るための「SOSの出し方教育」を本校ホームルームで実践し、協力校への展開の足掛かりを作った。 ・「コミュニケーションスキル」を登校コースのセレクション講座で展開し、さらにライフデザインコースの生徒も学べるようスクーリング指導案も整えた。	B	・生徒がもつ心理面での課題に対し教員・保護者が適切な対応ができるよう、本校SCによるビデオ講座をリニューアルし、NOSのお知らせから配信する。 ・SC不在の協力校の保護者や生徒に対し、オンライン研修会などを年間て計画・実践する。 ・養護教諭から生徒・保護者に向けた「保健室たより」を定期発信し、日々の健康管理を呼びかける。 ・本校で実施した「SOSの出し方教育」を協力校でも実施する。NHK学園内に気軽に相談できる人(担任、SC、SSW、養護教諭等)がいることをさらにアピールし、相談の仕方をより具体的に伝えていく。

	<p>凡例</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない</p> <p>進路についての先生の指導やアドバイス、学校の取り組み（説明会などの学校行事や情報提供）に満足している。</p> 	<p>自分のやりたいことを見つけている（できそうだ）。</p> 	<p>卒業後の進路を教えてください</p>  <p>■ 進学 ■ 就職 ■ すでに働いている ■ 未定 ■ その他</p>
<p>3 進路指導</p>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あすなろカフェ」を運営するNPO法人との連携を強化し、総合型選抜や学校推薦型選抜で求められる「自分の強み」を生徒が見つけられるように、指導、助言を行っていく。 ・自分の能力や志向を把握できる「学びみらいPASS」を1年次より年次移行で導入していく。これをもとに全国でネットホームルームや三者面談（対面に加えオンラインも活用）を実施し、進路指導はもとより、学習指導、生活指導にも活かしていく。 ・支援教材を見直し、受験対策や実用英語検定などの検定対策、小中学校からの学び直し等、生徒が個々のニーズに応じて学習に取り組み、進路実現に結びつけられるように指導する。 ・予備校等とも連携して生徒の進路実現に役立つよう、講演会をさらに充実させていく。 ・進路指導を依頼する際にどのようにすればいいのかわからない、進路の情報をどこで手に入れることができるのかわからないという声があった。 	<p>具体的取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あすなろカフェ」は総合型選抜や学校推薦型選抜の受験が多くなる時期に開催回数を増やし、面談希望者のリクエストに応えやすいように体制を整えた。それにより、受験までに繰り返しの指導が行いやすくなった。 ・受験対象者に、「学びみらい PASS」がどのようなものかを周知し、受験しない生徒には担任が個別に働きかけた。また、受験後に活用のための解説会や個別面談を実施したところ、受験率は60%であったが、受験者からは「今後も受験したい」という声が多く届いた。 ・これまでの支援教材よりも講座数が豊富な「スタディサプリ」を導入した結果、申込者が圧倒的に多くなり、進路指導が効果的に行えるようになった。 ・大手予備校から講師を招いて、受験に向けての講演会を年間4回、実施した。予備校による得意分野を考えて講師を見直し、内容を充実させた。オンラインで全国配信し、協力校の生徒も参加できるようにした。 ・「進路 NAVI」の発行を月初めと定めて「学校からの大切なお知らせ（れんらく板）」とともに送ることで、進路に関する情報を入手しやすくなった。また、NOS のチャット機能で「進路について」の質問項目を置き、担任だけでなく、進路指導担当教員に直接質問しやすい体制を作った。 	<p>達成度</p> <p>A</p> <p>次年度への課題と改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あすなろカフェ」は年度末に利用者が非常に少ないため、その時期には次年度に向けてのイベントを実施したり、その分の開催をリクエストの多い時期の実施に変更したりするなど、生徒が利用しやすい体制を作っていく。 ・初めての試みで、受験し忘れる生徒もおり、あとから「受験したい」という連絡が多く寄せられた。事前の周知方法を再度見直すとともに、受験実施期間に柔軟性を持たせ、生徒が受験しやすい体制を整えていく。 ・「スタディサプリ」の受講希望者に早めに取り組んでもらえるよう、学校による手続きの流れを整理していく。 ・引き続き、講演会の内容を精査し、その時期に伝えたい内容をタイムリーに講演してもらえるようセッティングし、充実を図っていく。 ・進路に関するアドバイスや学校の取り組みがまだまだ十分でない部分があるという意見を受け、さらに改善すべき点がないかを探り、改善を図る。
<p>4 学校全般</p>	<p>凡例</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない</p> <p>自立する力を身につけることができている。（できそうだ）</p> 	<p>学校の雰囲気や学習内容は、NHK学園のホームページや案内書のイメージ通りだった。</p> 	<p>NHK学園に入学してよかった。</p> 
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活において満足感と達成感が得られるよう学校全体でスクールミッションの実現に努める。 ・NOSは、学習を進めるための基幹システムだけでなく、学校からの情報を伝えるコミュニケーションツールとしても最大限活用する。 ・学校評価アンケートへの生徒の回答率を上げる。 ・特色ある教育活動や手厚いサポート、在校生・卒業生の活躍などを効果的に発信して、入学検討者が学校生活を具体的にイメージできるような広報活動を行う。また、通信制高校である学園の特色をよく理解して入学し、自分に最も合ったコースを選択してもらえるようにする。 	<p>具体的取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立して生き抜くための基盤となる力を身につけることができるよう、NOSのリニューアルによる機能の強化や、SC、SSWなどによる支援の充実、新たなツールも活用した進路指導などに取り組んだ。 ・2024度からNOSをリニューアルし、画面構成を工夫して情報を整理し見やすくした結果、2023度と比べてNOSを活用している割合が上昇した。また、画面を開くとその時点で最も重要な連絡事項を簡潔にまとめた「ブリーフィング動画」が立ち上がる新機能を導入した結果、生徒に大切な情報が伝わりやすくなった。 ・NOSの「ブリーフィング動画」を活用して、学校評価アンケートへの回答、とくに自由記述欄への回答を呼びかけた結果、回答率の上昇には至らなかったが、自由記述欄の記載は2倍に増えた。 ・ホームページや案内書、個別相談などで、各コースの特色を丁寧に説明し、入学検討者が最も自分に合ったコースを選べるように努めた。また、学校生活の様子をきめ細かに発信するとともに、スクーリングの様子や行事を見学できる機会や在校生の話も聞ける場を増やして、学校生活を具体的にイメージしてもらえるようにした。 	<p>達成度</p> <p>A</p> <p>次年度への課題と改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「NHK学園に入学してよかった」に「そう思う」と回答した生徒の割合が、3年次では72%と、1・2年次と比較して増えており、今後も、卒業に向けて満足度が上がるよう、スクーリングの改善や、様々なサポートの周知、総合型選抜を見据えた進路指導の強化に取り組んでいく。 ・自由記述欄にはNOSが使いづらいという声もある。生徒に対して利用のためのサポート体制（ネット学習ヘルプデスク）が整っていることをさらに周知する。また手軽に質問ができるチャット(Teams)機能なども活用していくように引き続き促していく。 ・自由記述欄に記載された意見も含めて、学校評価アンケートの結果を生徒や保護者にフィードバックし、学校評価を学校の改善に役立てていることを伝えることで、回答率の上昇を図るとともに、生徒たちが自由に意見を述べることで開かれた学校づくりを進めていく。 ・実際の学習の様子などを見てもらう機会をさらに増やし、学園の教育活動の特色や恵まれた教育環境を実感してもらえるようにする。 	

第三者評価委員からの指摘・評価等

○昨年度から改善されている点もあり、とても意味のある結果であった。自由記述欄などでは厳しい意見が見られるが、先生方は目を背けず真摯に向き合っている。肯定的な意見も多くあって励みになるので、共有し喜びを分かち合っていたきたい。国立市は「子ども基本条例」(2025年4月1日施行)を定め、子どもの意見を重視する姿勢を明らかにしている。アンケートで自由記述をする生徒が増えたとのことで、そうした声を大事にもらうことはもとより、何らかの形で生徒たちにフィードバックをしてもらいたい。

○自由記述欄については、記載された意見に対するレスポンスがないと次回の継続回答は望めない。生徒が回答する動機づけになるので大事にしてほしい。

○生徒の日頃の活動を、記事にして紹介してくれるところなどは、生徒にとっては嬉しいと思う。次年度へ向けて、自由記述の誘導として、学校生活で、良かったと感じたことを1つ、残念に感じたことを1つなどといった例を示してもらえると、さまざまなエピソードを書いてくれる生徒も増えるのではないかと期待したい。他校では、総理大臣、都知事に伝えたい政策提案も書いてもらうといった取り組みもある。工夫をすると、さらにコメントが集まるように感じた。

○回答率を上げるためには、リマインドの回数とタイミングをもっと工夫し効果的に行う必要がある。回答率が高い方がより学校運営に反映できることも折に触れて説明し、ご協力を仰ぐとよい。また、学校が意見を受け止めていることをさまざまな形で示せると良い。アンケートをスクーリング中に実施するなど、回答に強制力を持たせてはどうか。

○相談体制について、システムを知らないということや、使うのに勇気がいるというようなことが障害であれば、改善策はあると思う。ただし、生徒自身の心の課題で、他者への信頼が持てないのであれば、別のアプローチが必要となる。例えば、チャットボットがおすすめて、教員の負担も減るのではないかと。相談に来る生徒を入学1年以内の割合とそれ以外での比較してみるのもよい。

○中学校で不登校だった生徒にとって、観点別評価とは何かを理解させることは分析の通り大切だと思う。

○生徒が、スクーリングに参加する意義と効果を認識していないために、「通信=学校に行かなくて良い」という意識が先行しがちなように思う。

○一斉メールは、定期便と臨時便の区別をつけると、頻度が多いという感想が減るのではないかと。

○学校と保護者との連携について、学校との協力体制を強いられるのではないかと不安などから連携を好まない保護者がいる可能性がある。ただ、卒業資格を取ればよいと考えている保護者ばかりではない。気軽な交流が自発的な活動へつながることがある。スクーリングを参観できる機会などで交流の場を設定してみてはどうか。オンラインであれば参加したいのかどうかも聞いてみたい。

○満足度については、卒業に向かって満足度が上がっているかどうか重要である。総合評価の記載をみて、他の項目の肯定的・否定的回答を比較すると、新たなものがみえてくるのではないかと。

○「進路NAVI」がカラフルで生徒によっては、視覚への刺激があるという指摘には、カラーバリアフリー等ガイドラインをご参考にしてほしい。

<2024年度 第三者評価委員(五十音順 敬称略)>

・新井 しのぶ 委員 小金井市立東中学校 校長

・荒西 岳広 委員 国立市教育委員会 教育指導支援課長

・井村 良英 委員 認定 NPO 法人育て上げネット 執行役員

・小宮山 英明 委員 全国高等学校通信制教育研究会 事務局長

・山田 哲也 委員 一橋大学大学院 社会学研究科・社会学部 教授